

ENMAのオープンソース公開の経緯・狙い

2009/5/19

株式会社インターネットイニシアティブ

メッセージングサービス部

山本 功司 koji@ij.ad.jp

- 2004年頃より、送信ドメイン認証技術の調査、評価、実験
 - ◆ 2005年にIIJ社内環境に試験導入
 - ◆ オープンソースのmilterを利用
 - 品質悪く、数十個のバグフィクスパッチを独自に(フィードバックも)

- 2006年3月より送信ドメイン認証(SPF)のチェック機能を提供
 - ◆ 2006/3/30 IIJ4Uより順次各サービスに
 - ◆ オープンソースのライブラリを活用しつつ、milterは独自開発

- DKIMについては、ライブラリ、milterともにスクラッチで独自実装、平行してSPFのライブラリも独自に実装
 - ◆ 先行してIIJ社内で、DKIM、SPFともに独自実装バージョンを稼働

- 2008年夏、IIJサービスにて独自実装バージョンを稼働

- 2007年 IAJapan主催の迷惑メールカンファレンスで、SPF普及のために、「まともな」 SPF milterを作って配布しようという話が持ち上がる
 - ◆ オープンソースの既存のものは品質が悪い/要求仕様(後述)を満たさない
 - ◆ 中小企業/ISPでは商用のものを買う余裕はない
 - ◆ 日本語の情報が不足

- 2008年春頃、上記イベントに協力しているkazu(山本和彦/IIJ技術研究所)より、「IIJは困ってないの? どうしてる?」と聞かれる
 - ◆ 「IIJは独自実装で困ってない」
 - ◆ 「なんか協力できない?」との打診
 - ◆ 「じゃあ、公開してみようか」

- 協力体制について、協議
 - ◆ 開発はIIJ、公開(パブリシティ)をIAJapanが協力という体制に

- IAJapan周辺での要求仕様
 - ◆ 特定のドメインに対して、認証結果を利用したアクションを個別に適用したい(選択適用)
 - ◆ yahoo.co.jp は SPF が softfail でも受け取り拒絶、その他は softfail なら受け取る、等
 - ◆ RPFやmilter-manager等で今後実現を検討

■ 送信ドメイン認証の普及に貢献

- ◆ 送信ドメイン認証の普及はIIJを含めた業界全体に恩恵がある
- ◆ 品質のよい、ドキュメントの揃ったものを公開することで普及を促進
 - IIJでのサービスに耐えうる品質
 - 日本語ドキュメントの充実 → 日本での普及のハードルを下げる
- ◆ 開発物そのもので直接的利益を得ることはIIJの業務の本流ではない
 - サポートコストなどを考えると、あまり益はない
 - コンサルテーション、構築等のご相談はwelcomeです☺

■ 技術力アピール、プレゼンスの向上

- ◆ 先進的技術に独自に取り組む点
 - 英語のドキュメントも用意することで、世界へもアピール
- ◆ オープンソースで公開することにより、サービスを利用していない人でも理解できる「品質」のアピール
- ◆ ISPという形ではなかなか見えにくい、開発者への「やりがいある仕事」があるというアピール